

1日目(9月6日) セッション概要-1

IT
トラ
ック

IT-1 プロジェクトを成功に導く超上流の勘どころ 13:10 グローバル経営のための「経営とITの融合」

PMオフィス21
代表 渡辺 貢成 

【セッション概要】1. ITプロジェクトの現状の問題点：①ITプロジェクトの3K問題が騒がれたが、2006年に経産省の示唆で、プロジェクト発注者は経営者が超上流(構想計画)で新しい経営への要求を提供することが求められた。②2008年の調査でグローバルレベルへの到達企業は23%程度である。
2. 対策：①グローバル社会の変化への認識、②P2Mの特長を活かしたOWモデルを活用した経営分析、「あるべき姿」としての「規模の経済」から「組合せの経済」×「スピードの経済」への転換のための対策を解説する。

【講演者略歴】日揮・石油精製(海外)原子力事業本部副本部長、有人宇宙システム(国際宇宙ステーション計画)専務、JPMF初代事務局長、P2Mガイドブック改定委員長、PMS講師、東北大MOT講師、北陸先端科学技術大学MOT講師、PMAJ理事、国際P2M学会会員

IT-2 グローバル開発における課題とPM育成 14:15 「気が利くPM」を育成する方法とは？

株式会社NTTデータ
技術開発本部 シニアエキスパート 滝本 雅之

【セッション概要】NTTデータでは、ITサービス分野の「グローバルトップ5」を目指し、国内外のグループ企業連携によるシナジー効果の創出や事業体制の強化のための各種施策を実施している。本セッションでは、まずNTTデータにおけるグローバル戦略を説明する。その上で、既に多くの実績のある情報システムのオフショア開発モデルでの課題を挙げ、解決施策の一事例として、オフショア先PMに対する育成プログラムの事例を紹介する。

【講演者略歴】2002年～生産性向上のための開発支援ツールの企画・開発および適用支援を担当。2006年～社内外の情報サービス人材の育成プログラム開発を担当。2009年～社内の開発プロセスの普及展開および国内外への適用支援および海外PMの育成を担当。現在に至る。

IT-3 オフィスでのドキュメント業務の変遷 15:35 多様化するオフィス環境への取り組み

キヤノン株式会社 映像事務機DS事業部
シニアプロジェクトマネージャー 町田 晴生

【セッション概要】オフィスでは“紙”ドキュメントを取り扱う業務は数多くある。キヤノンは、複合機、プリンタ、スキャナなどのデバイス、ならびにそれらに関連する様々なソフトウェアを提供することでオフィスでのドキュメント業務をサポートしてきた。昨年、技術進歩、環境変化に伴い、オフィスにおけるドキュメント業務もこれまで以上に大きく変革しようとしている。本講演では、オフィスにおけるドキュメント業務についてキヤノンのこれまでの取り組みについて紹介する。

【講演者略歴】1987年キヤノン株式会社入社。DTPソフトウェア開発、デバイス組み込みソフトウェア開発、ドキュメントソリューションシステム開発などに従事。ソフトウェアプログラマー、プロジェクトマネージャーなどを経て、2009年より現職。

IT-4 CCPM適用によるプロジェクトマネジメントの革新 16:40 品質を落とさず工期を3割短縮するPM手法とは

大和ハウス工業株式会社 次長 松山 竜蔵
株式会社富士通システムズ・ウエスト 部長 中江 功

【セッション概要】マネジメントを変えることで25%以上の期間短縮を実現したプロジェクト事例のご紹介を通し、CCPM(クリティカル・チェーン・プロジェクト・マネジメント)という新たなプロジェクトマネジメント手法の有用性と、如何に期間短縮と品質確保の両立を実現したかを説明します。何故、CCPM適用が上手くいったのか？どのように定着させたのか？その工夫や苦勞をユーザとベンダーのリーダーがそれぞれの生の声として事例をご紹介します。

【講演者略歴】松山 竜蔵：大和ハウス工業で本社・事業所の経理を歴任。2010年4月から会計分野へのSAP導入プロジェクトのプロジェクトリーダー。中江 功：富士通グループにて主に大規模ERP(SAP)導入に関するプロジェクトマネジメントを担務。(米国PMI®認定PMP®)

P2M
トラ
ック

PA-1 HIDAの開発途上国への人材育成支援事業の軌跡 13:10 開発途上国とのイコールパートナーシップを目指して

財団法人海外産業人材育成協会(HIDA)
理事 米田 裕之

【セッション概要】(財)海外産業人材育成協会は官民連携のもと、グローバル化時代の先駆けとして、開発途上国の産業人材育成を推進してきました。今まで約16万人の研修生を日本に受け入れ研修を実施してきました。これらの成果はアジア諸国を始めとする開発途上国の産業発展という形で結実し、研修生による同窓会が世界43か国70地域に設立され、日本との友好関係を増進しています。HIDAとしての事業戦略と具体策としての研修事業を紹介し、研修生が帰国後生んだ成果を、事例を中心に紹介し、今後注力するインフラ関係の事業もご紹介します。

【講演者略歴】海外技術者研修協会(AOTS)入職後、研修業務に従事。マニラ事務所長、海外部海外研修課長、横浜研修センター研修課長、横浜研修センター館長を経て、今年度より海外産業人材育成協会 理事。(2012年3月末、海外技術者研修協会と海外貿易開発協会は合併し(財)海外産業人材育成協会となる)

PA-2 経営イノベーションを成功に導く 14:15 ビジネス・プロデューサー

新潟県立大学
客員教授 川勝 良昭

【セッション概要】日本の構造的危機と世界激変の時代に生き残り、発展する企業は、安全・安定・安心な既知に軸足を置く改善・改良式の現状維持型でなく、不安全・不安定・不安な未知に軸足を置く夢挑戦式のイノベーション型である。経営に夢、革命的経営改革の決断、真のビジネス・プロデューサーを欠くイノベーションは成功しない。新商品・製品、新技術、新事業の新価値を創造(イノベーション)する理念論と方法論、夢の実現に汗と涙と血を喜んで流す人物(発掘、選別、役割、責任、評価、育成)を論述する。

【講演者略歴】新潟県立大学と中国政法大学の客員教授、経営コンサルタント、PMAJ理事等。以前～新日鐵テマパーク(TP)事業部長、セガTP事業部長、NTTデータ経営研究所顧問、岐阜県理事、新潟県参与、NY州立大、法政大、東大、亜細亜大、中央大の客員教授等。

PA-3 P2Mによる地域イノベーション創出 15:35 産学官民連携によるネットワーク化と人材育成

財団法人中部産業・地域活性化センター 野崎 道哉
中部P2M研究会 幹事 野村 武史

【セッション概要】地域の中核的な支援機関である公設研や大学等研究機関には、地方産業界の技術力向上のための支援が期待されているが、これらの研究機関の保有する研究技術シーズは各機関に分散し、県域を越えた組織横断的なネットワークの構築整備が課題である。課題対策のために、地域イノベーションネットワーク共同体形成の試み、研究開発の手法、産学連携モデルとしての市場対話型モデルについて紹介する。P2Mの地域研究会組織である、中部P2M研究会の活動を紹介します。

【講演者略歴】野崎 道哉：2008年3月弘前大学より博士(学術)取得。(財)中部産業・地域活性化センターで、産業連関表の研究に従事。野村 武史：中部P2M研究会 幹事。名古屋中堅ソフトウェアハウスにて、主に製造業向け業務ソフトの開発プロジェクトにPMとして従事。

PA-4 宇宙のリスクマネジメント 16:40 想定外の事故にどう備えるか

宇宙航空研究開発機構 理事 長谷川 義幸
宇宙航空研究開発機構 主任開発員 中村 裕広 

【セッション概要】宇宙飛行士の乗る宇宙船の安全設計は、類似の宇宙船や開発過程で発見された個々の不具合に都度対処するのではなく、不具合対処を設計の段階ですべて前提条件として考慮し、多重化または安全装置により、想定できる事故が起きないように制御することを基本としている。さらに、残存リスクは非常装置、訓練等により人間により対応する手法をとる。今回、有人宇宙機開発におけるリスクマネジメントの一端として、安全管理手法の概要を紹介する。

【講演者略歴】長谷川 義幸：昭和51年宇宙開発事業団入社。通信、放送、気象衛星システムの開発に従事。平成7年より国際宇宙ステーション開発に参加。プロマネを経て、平成23年8月より現職。中村 裕広：平成5年同入社。国際宇宙ステーション用実験装置の開発、安全審査に従事。

エン
ジ
ン
建
設
・
公
共
ト
ラ
ック

EG-1 東京スカイツリー® 13:10 世界一への挑戦

株式会社日建設計
プロジェクト開発部門 企画開発部長 山本 秀樹

【セッション概要】今年5/22に開業した高さ634m、世界一の自立式鉄塔「東京スカイツリー®」プロジェクトは、単なる地上デジタル放送用電波塔の建設事業というだけでなく、東京東部地域の活性化に向けた起爆剤となることを期待され、事業者と地元と行政が共同で誘致を果たした地元期待のプロジェクトであった。2004年から始まったこのプロジェクトの経緯や計画概要、特に東京の新たな景観を創るタワーのデザインや、実現化のためのエンジニアリング技術等を紹介します。

【講演者略歴】1964年福岡県生まれ。1989年九州大学大学院建築学専攻修了。2000年(株)日建設計入社。「飯田町アイガーデンエア(2003年、東京都)」、「ミッドランドスクエア(2004年、名古屋市)」、「東京スカイツリー®(2012年)」など大規模プロジェクトの都市計画、PM業務を担当。

EG-2 変革を実現させるプログラムマネジメント 14:15 プラントプロジェクトの事例から5つのポイントを紹介

株式会社IHII
ボイラPJ統括部 課長 中村 元哉 

【セッション概要】より変化が激しくなるビジネス環境の中、変革の必要性を感じながらも、具体的な行動を起こせない、実効性が伴わないと言う企業も多いであろう。特に、プロジェクトマネジメントの高度化が必要な企業が、その基盤の変革に手を付けられずにいることが多い。プラントエンジニアリングの現場を舞台に、如何にしてプロジェクトマネジメントの機能を高め、事業撤退の危機を乗り越えたのか、その事例と共に、重要な5つのポイントを紹介する。

【講演者略歴】東京工業大学工学部卒業。株式会社IHIIにおいて、国内外の発電プラントプロジェクトに携わる。R&D、エンジニアリング、プロジェクトマネジメントを経験し、現在はロジスティクスを統括。PMAJ認定PMLレジスタード。グローバル経営大学院MBA。

EG-3 建設業の工事進行基準対応原価管理技術 15:35 これで会計監査に合格する内部統制環境ができる

株式会社シーム
代表取締役 本間 克三 

【セッション概要】建設工事の工程表は今でもExcelで作成されていて頻繁な工程変更の管理ができません。紹介するのはPMツールの基本機能だけを使ってスケジュールとコストを一体管理するダイナミックなベースライン作成技術です。工事途中の進捗状況や利益を何時でも報告できます。会計理論的には制度会計の工事進行基準と管理会計の直接原価計算をPM画面上で一体的に表示する戦略会計の技術です。時間軸上を自由にシミュレーションできるPMツールの特徴を活かした現場と経営の共通基盤です。

【講演者略歴】・技術士(建設部門、総合監理部門)、PMP® ・沖縄におけるPM技術の普及を目的に沖縄PM研究会を運営 ・工程管理技術支援の株式会社シーム代表 ・沖縄において建設業における工程計画、工程管理、原価管理に関する土木技術者向けのセミナーを実施

EG-4 プログラムマネジメントとしての病院PFI 16:40 都立松沢病院PFIの事例紹介と病院PFIの可能性と課題

株式会社メディカルマネジメント松沢
取締役 金光 健 (日揮株式会社 理事)

【セッション概要】病院は患者さんの治療・回復を旨とし多職種が働く複合体であり、それを支えるサービス、システムも多岐にわたる。本プロジェクトは病院PFIの中でもフルスペックに属するもので、設計・建設、運営サービス、維持管理、独立採算、医療機器備品調達、医療材料・薬剤の調達代行、エネルギー供給までが含まれる。課題は多くこれらのマネジメントはまさにプログラムマネジメントの概念が必要な領域である。本プロジェクトの概要をご紹介します。病院PFIの課題と今後の可能性について概説する。

【講演者略歴】日揮入社以来30年にわたりメディカル関連プロジェクトを担当。日揮株式会社理事、株式会社メディカルマネジメント松沢 取締役 統括部長。医薬経営コンサルタント、東京大学大学院 新領域創成科学研究科 プロジェクトマネジメント講座講師。